

レッジョ・エミリアと私の可能性

児童教育学科 3年次生 平江さん

私は、レッジョ・エミリア E-Learning スタディプログラムに参加するまで、レッジョ・エミリアという都市名を聞いたことがあったのですが、レッジョ・エミリア・アプローチが世界でも評価されている教育だと聞き興味を持ちました。そして、もっと学びたいと感じ、参加することにしました。

私が Marina Castagnetti さんのお話から感じたレッジョ・エミリアの特徴は、二つあります。

一つ目は、子ども主体ということです。保育者は子どもの興味や探求心を大切に、一人ひとりをしっかりと観察していました。その中で、保育者が子どもを見守る様子がよく見られました。しかし、放任主義とは全く異なります。子どもが何に興味を持っているのかを理解し、その興味をより深めるにはどうしたらよいのか考えていたのです。また、子どもと一緒に学ぶ姿勢を多く感じました。保育者は子どもの理解者となることで、子どもの能力を引き出し、可能性を広げていると考えます。その際、解決策は与えないと聞きました。子どもは、興味や関心を持ち自分で考えていくプロセスの中で成長していくのです。保育者の関わりは、子どもにとって人生を左右すると言っても過言ではないと言えるでしょう。

二つ目は、環境です。私は、初めてレッジョ・エミリアの町や保育室を見たときに美しさに目を輝かせました。私が感じた美しさは、色彩・風景・自然などの目ではっきりと分かるものと、人とのつながりや心という目には見えないものがあります。視覚で感じられる美しさは、環境構成につながります。レッジョ・エミリアではどのような道具を置くのか、それをどのように置くのかまで丁寧に話し合い、考えていることが分かりました。その細部まで深く考えられた環境構成に、大変驚きました。また、視覚では感じられない美しさは、地域の人との関わりがあげられます。レッジョ・エミリアには広場があり、様々な人が集います。その中で、子どもと大人が挨拶を交わしコミュニケーションを取っている様子が見られました。そして、保育について市民が意見を交流し分かち合うことで保育に新たな変化をもたらします。これこそが、地域がひとつになって行われる保育だと感じました。

私がスタディプログラムを通して学び考えたことは、保育には環境のあり方が不可欠だということです。この環境は、物的環境・人的環境・空間的環境です。子どもにとっての魅力的な環境づくりをすることで、豊かな成長につながると考えます。そして、レッジョ・エミリア・アプローチをそのまま日本で行うのではなく、取り入れるということです。子どもは一人ひとりが無限の可能性を秘めています。保育者は、その可能性を広げていけるような環境を大切に、子どもと対話することが大切だと感じます。そして、保育者一人ひとりが保育の考えを深めていくことが重要になると考えます。私は、これからもレッジョ・エミリアの保育を学び、保育と自身の可能性を広げていきたいです。

